

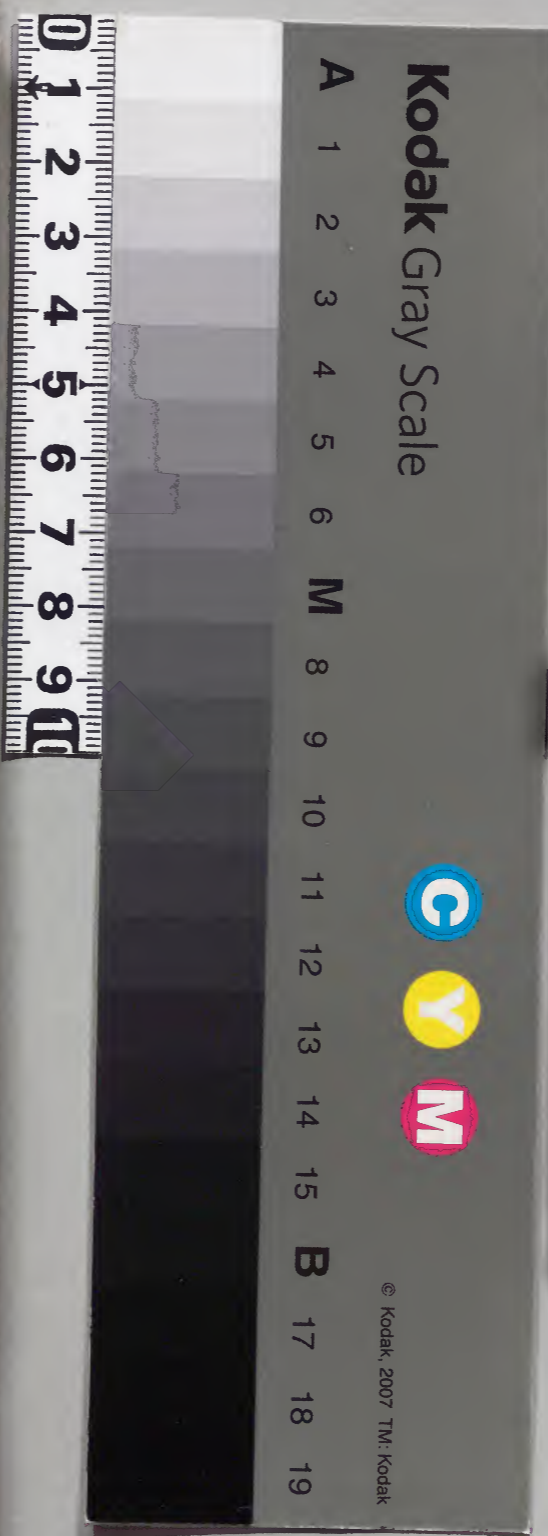
蒲生文武記

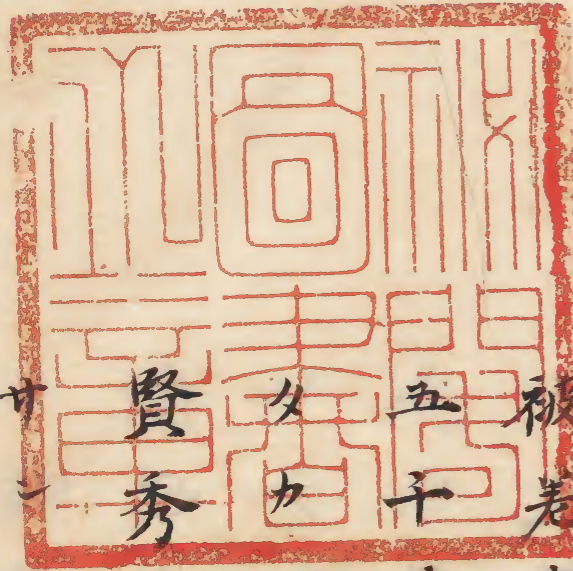
二

如

庫文閣内		
一五五函	三三八九三號	和書
一七架	六冊	

内閣文庫		
番號	和	33893
冊數	6 (2)	
函號	155	234





賢秀ハ横山佐和山ノ兩城ヲ追崩
 勢ヲ二午ニ分ケ横山ハ



瀧川左近太夫一益ヲ大將トシテ



永禄十三年四月二日永原表ハ



蒲生文武記卷第二

ハ町野左近佐治新八結解才郎兵
衛世山甚内易井深五郎ヲ大將リ
シテ都合三千騎ニテ差向佐和山
ハ賢秀自身手勢二千騎ニ江州
ノ散勢ヲ集メ都合五千騎ニテ押
寄セ兩城同時ニ攻戦ケル四月六
日ニ徳川家康公御上洛有トソ聞
ハケレハ横山佐和山ニ楯籠ル者

此イヨク不叶ヤ思ヒケン賢秀ニ
降参ラ請ケレハ和睦シテ堅ク誓
紙ヲ取テノ隔陣アリケル信長公
モ不料御感有テサラハ肥田表ヲ
退治スヘシトテ先軍評議アソハ
サル今度ノ吉例ナレハトテ蒲生
賢秀ニ大將ヲ被仰付津田金助淺
井新八ヲ被卷副都合其勢公千騎

二月四月十五日ニ 登向アリケル
トナリ

元龜元年信長公越前国ノ守護義

景ヲ退治セシトテ四月七日ニ岐

阜ヲ御登向アリ先手ノ大將ニハ

蒲生左兵衛賢秀同忠三郎氏郷附

勢ニハ柴田修理ヲ被差添ケル賢

秀心中ニハ柴田ヲ被副吏不心得

被思ケレ氏御意ナレハ無力蒲生

手勢三千五百騎其外江州ノ勢ヲ

集加テ都合五千余騎トソ聞ハケ

ル九五日ニハ越前国敦賀表ニ着

玉ヒケル先手筒山ノ城ヲ可攻ト

テ九六日早且ニ押寄七重八重ニ

取巻テ一度ニ墮ト責懸ケル城中

ニモ究竟ノ兵多少措篋ケルハ輕

輕シクハ可攻落トモ不見信長公
荒手ヲ入督責ヨト宣ハ柴田修
理木下藤吉郎池田勝三郎兼テ我
不下ト喚呼テ攻懸ケレハ賢秀彼
等ニ先ヲ越サレテハ毎念十ルハ
シト思ハレケレハ一番ニ走向ヒ
一ノ木戸ヲ押破乱入テ火花ヲ散
シ戦ケル処ニ黒皮威ノ鎧着テ長

刀持タル兵賢秀ニ切テカ、リケ
ル得夕リ賢ニ十テ十文字ノ鎧手
長ニ取延テ互ニ兵法ノ秘術ヲ尽
ニ戦ケルカ賢秀運マ善リケニ遂
ニ突倒ケレハ氏郷頓テ馬ヨリ飛
テ下リ其首亦落其俵ニノ木戸ノ
屏ヲ乘越テ敵ト渡合相戦テ首ニ
ツ討取鋒ニ貫キ走出信長公本陣

カニテ将来リ見参ニ入ニカハ信
長公モ不斜御感アリ宣ケルハ先
年勢別大河内奈向ノ時志三郎首
取テ功名セニ戒ニ及リ定メテ
不心得今ニ可思餘リ氣早ナル若
武者ヲ褒美スレハ勝ニ乘リ必深
入ニテ討死スル者ナレハ我戒ニ
ノシツカシ今度ノ働キ不言及語

手柄也先信長始テ江州奈向セシ
時賢秀カ具ニテ出シテ一日我見
シヨリ眼ナシ唯人ニテハアラシ
ト思ヒ其修聲ニ契約セシカ目利
ハ遠ハナリケリト宣ヒ自ラ也艱
取テ氏郷ニ給リ見ヨク殿原信長
カ聲ニ取テモ不足ナシト被仰ケ
レハ御前伺公ノ侍モ皆ウラヤマ

ナルハナニ其ヨリ四方ノ寄手蒲
生父子ニ先駢セラレニ事安カラ
ス思ヒ我先ト込入テ火花ヲ散シ
戦ケル蒲生カ郎等ニ森民部所主
水助外池甚五左衛門横山喜内佐
治孫八易井茂左衛門世山源八等
後陣ニカケ通サレ先ヲ越スナ
カケ塞リ敵ニ息ツツカセス爰ニ

先達ト喚テ懸リ面モフラス責戦
秋ノ野ニ野分ノ風ノ吹如ク討取
ケレハ不叶ヤ思ヒケン我先ニト
落屏高櫓トモ不謂也重テ己カ太
刀釵ニテ突貫死モアリ自腹カイ
テ死モアリ各生捕分取ニテ不残
討果シケレハ信長公モ不斜御感
アリテ各一感狀給リ其ヨリ朝倉

中務カ指筆金崎ノ城一押寄ケル
誠ニ此イキライニヤラソレケン
降参ラ乞テ命ヲ助リ城ヲ明退ケ
ル也去程ニ浅井備前守長政逆
心ノ由早馬ヲ以申来リケレハ引
返シ先浅井カ一黨ヲ追伐シテ後
當国ヲハ静ム一シトテ金崎ヨリ
上洛ニ玉フ浅井一黨ニ佐々木及

残兵凡加リ蜂起シテ近江ノ通路
ヲ差塞ノ由聞ハケレハ信長公先
江州ニ参向アリ國中ノ城々一仕
置ヲ被為仰付守リノ人数ヲ残シ
置レ今度ノ忠節ヲ尽セニ輩ニハ
本領ニ御加増ノ地ヲ給リケル蒲
生父子ニ御加増ノ領知ヲ給テ
本領日野城一被残置ケル佐々木

カ一族愛知郡谿江ノ城ニ指籠リ
市原近辺ノ者凡ヲ集テ一揆ヲ催
シ義濃國ヨリ京都ハノ通路ヲ差
塞カントスレバ蒲生賢秀亦追
散シケレハ自由ニ不能勸信長公
ニ無恙千種越ヲ下向アリケルト
ナリヌラニ岐阜ニ御着有テ蒲生
領分ノ内ハ一ハ軍役ヲ御免アリク

ル其御書ニ

其方當知行分内寺庵方其外諸
更可為如前蹤新儀之課役雖為
國並其方於分領者相除之状如
件

元龜元年五月十五日

信長御判

蒲生左兵衛及
同 志三郎及

元龜二年五月十日信長公尾張國
長嶋ヲ討伐アルヘシトテ五万余
騎ヲ引率シテ御祭向アリ今度モ
吉例ナレハトテ先年ノ大將ハ
蒲生父子ニ柴田勝家ヲ被差添ケ
ル信長ハ津嶋口ニ本陣被居御旗
ヲ奉ケル多藝口ニハ蒲生父子陣
取リ人馬ヲ息ヲ被休タル十二日

ニ野々村三十郎湯淺甚助以兩便
其方在々一烽火ヲ奉焼拂ヘキ由
被為仰付ケル處ニ敵数千騎ニテ
出散々相戦ケレハ柴田追散サ
ントテ馳向シニ敵鎧ヲスニ作
テ待カケ案内ハ知タリ爰カシコ
ノ節取々ニテ取ケレハ勝家
モ引取ントスレハ手痛突懸ケレ

ハ 難儀ニ見一シカハ 蒲生父子横
鎧ニツキ 拵餘ス十モラス十討取
ヤ者凡ト 乘廻ミ下知シ 攻戦ケレ
ハ 尾張勢 賢秀ニケタテラレテ 悉
敗北シケル 其内ニ 柴田モ 難十ク
引取ケルカ 馬印ノ 五幣ヲ 敵ニ 奪
レケル 此幣ヲ 高ク 指拳テ 柴田 殿
ノ 逃サセ 給トテ 此幣ヲ シルシニ

給セトテ 時ノ 声ヲ 吐ト 作一度ニ
笑ケレハ 勝家無念ニ 思ハレケレ
凡 無力爰ニ 勝家小姓 水野次右衛
門トテ 生年十七歳ナリニカ 是ヲ
見テ 主人馬印ヲ 敵ニ 奪レテ 空
クニテ 帰事 安カラス 思ヒ 唯一人
引返シ 敵ノ 真中 懸破 彼五幣ヲ 奪
取テ 来リケレハ 勝家モ 時ノ 面目ヲ

聖タルトテ悦事カキリ十三誠
無比類働ナリ
同年八月信長公小谷本山ノ城
ヲ攻可落ナテ十六日御登足
リ案内ハ八条太郎左衛門御伴申
十九日江州北郡横山着玉
木本陣屋ヲ調各備ヲ取テ先迄
辺ノ在々一烽火ヲ奉小谷城ヘソ

攻懸給フ後ハ本山城前ハ小谷城
ナレハ敵前後ヨリ出取卷ニト
手痛責懸ケレハ寄手ハ多ク討ル
レトモ城中ハ恙ナシ信長モ難義
被思石先引取一ニトテ原田備中
守ニ鉄炮百五十丁被差添馳如テ
引取ナシ一尺敵前後ヨリ下合テ
ナシツメ引ツメ追崩サシテ攻ケ

レハ引取事自由ナラス勝家蒲生
向ニ後卷ノ夏頼申也ト有ケレハ
某ニ可任置トテ蒲生父子平町討
引寸カリ高キ世一走登リ敵味方
ノ安否ヲ考ルニ味方ノ旗色ハ足
立ソロハスニハラナレハ味方モ
先備ヲ取テ要害ヲ堅固ニシ可防
ト被申ケレハ氏郷ハ其俵横鍵ニ

突懸リ小谷繩手ヲ追廻ニ細道ニ
テ討トテハ何ノ可有子細必敵ヲ
追崩得利事掌ノ内ニ有ト被申ケ
レハ賢秀聞テイヤク敵ノ軍法ヲ
見ルニ備正シクシテ軍法ヲ堅固
ニ守リテヒカヘケレハ突懸十ハ
必可矢利免角味方モ此俵備ヲ取
テ軍法正シク守テ敵ノ捥ヲ見合

テ時ヲ移サハ歎モ後ニハ懈ノ心
出来テ必備ラ可乱其時ヲ待テ急
ニ討懸テハ勝利ヲ得ル莫必定也
是後戦ノ法ナリ早ク備ラ取ヨト
下知ニ堅ク備ラ被居ケル間歎モ
ソコワニ不討掛直ニ守應シテ時
刻ヲ過シケル誠ニ早天ヨリ歩出
日ハ午ノ下刻ニ成ケレハ何ノ食

物ノ用意モナク城中ヨリ出ケレ
ハ皆飢渴シテ身体勞シ下ニ座シ
水ナク服ニ備ラ乱シケル処ヲ賢
秀見ス下ニ時分ハヨキソカレ
ヤ兵厄ト下知シテ一度、嚏ト突
懸リ思々ト討取ケレハ返ニ合ス
ル者モナク我先ニト城中ニ出入
ツ、味方無故引取ケレハ信長公

モ一大事ト思召ケル処ナレハ不
斜御悦了リテ蒲生父子依被尽粉
骨無難引取莫大悦不過之トテ御
褒美アリケレハ賢秀謹テ今度ノ働
勝家武功ニテ候也ト被申ケル勝
家ハ蒲生ノ軍功只今ニ不限トテ
互ニ功ヲ讓ラレケルト也去程ニ
同九二日ニハ各佐和山ニ集テ軍

江上三六八、梁九二

評定被遊先小川新村ノ兩城ニ指
竈ノ一揆ヲ急キ誅戮アルヘシト
テ佐久間右市門柴田修理丹羽五
郎左市門中川八郎右市門蒲生父
子ニ被仰付ケレハ各手分ニテ先
新村城一押寄暫時力内ニ攻落ニ
ケル凡柴田力手下ニ討取首百廿
蒲生力手ニ討取首數百六トッ書

モ一大事ト思召ケル処ナレハ不
斜御悦アリテ蒲生父子依被尽粉
骨無難引取莫大悦不過之トテ御
褒美アリケレハ賢秀謹テ今度ノ働
勝家武功ニテ候也ト被申ケル勝
家ハ蒲生ノ軍功只今ニ不限トテ
互ニ功ヲ讓ラレケルト也去程ニ
同九二日ニハ各佐和山ニ集テ軍

評定被遊先小川新村ノ兩城ニ指
籠ノ一揆ヲ急キ誅戮アルヘシト
テ佐久間右市門柴田修理丹羽五
郎左市門中川八郎右市門蒲生父
子ニ被仰付ケレハ各手分ニテ先
新村城一押寄暫時カ内ニ攻落ニ
ケルハ柴田カ手下一討取首百
蒲生カ手一討取首百ト書

付ケル其威ニヤラソレケニ小川
城ニ指籠小川孫市郎モ金賀森ノ
一揆モ皆降参ニ出ケルトナリ
元龜三年七月十九日ニ信長公嫡
男奇城御曹子信忠公ノ御具足始
ノ祝言有テ後同廿一日ニ近江北
郡ハ出張ニ玉ニ浅井備前守カ指
籠小谷ノ城ハ押寄寅ノ刻ヨリ軍

始シテ互ニ火花ヲ散ニ相戦ケル
カ日モヤウク西ノ山ノ端ニナリ
リケレハ佐久間柴田木下蜂屋何
是程ノ小城ニ日ヲ暮ス丁可有ト
テ三ノ丸ニテ押ツメ放火ヲ峯テ
責戦ヒ餘スナ漏スナト首多ク討
取其夜ハ先虎後山ノ麓ニテ引取
野陣ヲ張テソ各アカサレケル義

景此由ヲ聞テ二万余騎ノ勢ヲ以
小谷マテ歩出テ後ヲ卷ンテ攻来
ケレハ信長公敵ニ前後ヲ包テレ
テハ忠カリナント思召一先義景
ヲ夜討ニシテ追拂ト被仰付ケレ
ハ各養テ思クニ折出我軍功ヲセ
ニト進ケル比ハ七月晦日ノ夜ノ
夏十レハ村雨降暗ナラシラシ小

谷繩寺ノ細道足ノヲミ所モ不知
谷進ヲ失ヒ或ハ味方ノ勢ト行當
テハ敵カト互ニ思ヒ討果スモ有
蒲生忠三郎ハ本ヨリ案内ハ知久
リ虎後山ヨリ折廻リ一番ニ義景
カ陣屋ニ火ヲ懸テ時ノ声ヲアケ
攻懸ケレハ敵油断ニテ甲ヲ又キ
弓ヲ枕トシテ卧ニケル処ニ敵押

寄ケレハ弓物具トヒシメリ処ヲ
乱入テ首多ク討取テ信長公ノ御
本陳サシテ引飯見参ニ入ラレテ
レハ不斜感ニ給ケルトナリ
天正元年七月一日將軍義昭公重
テ謀叛ヲ企給テ二條御所ハ人
数ヲ箆置御身ハ榎嶋ニ楯籠玉フ
由風刃アリケレハ信長公同月五

日ニ岐阜ヲ御立アリ攻上リ先ニ
糸ノ城ヲ攻夕マニハ降参ニテ城
ヲ閉キ渡シ命ヲ助リケルトナリ
其時モ蒲生父子一番ニ走り入テ
敵多ク討取レヨリ榎嶋一押寄
ケル遂室町殿ハ御倉ヲ助マイテ
已流罪ニコソ被行ケル
同年八月ニ江州大津城ヲ攻落ニ

夕マヒテ其ヨリ越前ノ凶徒ヲ退
散セントテ力根山ニテ陣取歎味
方入乱相戦ケル氏郷一番ニ母衣
懸武者ニ渡合互ニ鎗ニテ火花ヲ
散戦兵法ノ秘術ヲ尽シウケツ十
カシツ半時カ間ハ互ニ勝負不変
氏郷頓テ鎗ヲ取延テナケツキニ
突カケレハ敵ノ左ノ脇ハ螻蛄

マテツキコニケレハナシカハ夕
マルヘキ馬ヨリ後ハ顛倒ニケレ
ハ則首斬テ鋒ニ貫キ高ク差拳々
出ラレケレハ兵氏是ヲ見テ我ヲ
トラシト走入テ思ヒクニ分ナリ
生捕シテ追崩シケレハ信長公モ
門出ヨシトテ悦タマイ其ヨリ義
景カ居城ヘソ押寄ケル義景モ是

威ニ忍テ不能働即時ニ敗軍ニシテ
レハ則城代ヲ残ニ被置信長公ハ
御帰陣アリテラハ江州北郡一帯
向ニ浅井ヲ誅罰ス一シトテ先難
江ノ城ハ柴田勝家大將ニ被為
仰付伊庭表一ハ蒲生ヲ大將トシ
テ被差向ケレハ各推向ヒ粉骨ヲ
尽シ不殘追崩ケレハ北郡ノ地侍

ハ信長公一降参ニ幕下ニ属ニテ
ニ入ケレハ義弼ハ流浪ノ身トソ
成ニケル
天正二年七月尾張国長嶋ニ節所
ノ地ヲ便トシテ一向宗迄国ノ逆
徒ヲ集メ数千人揃籠ケレハ同月
廿五日ニ信長公信忠公数万騎ノ
勢ヲ引率シ奔向シ一江口ニハ信

忠公大将ニテ都合二万騎ニテ陣
取賀鳥口ニハ佐久間柴田大将ニ
テ一万余騎ニテ陣取ケレハ銀川
ヲ步越賀鳥嶋ニテ其勢満々夕リ
敵兵船二百余艘ニ取乗テ下間備
前舟ヲ大将ヨシテ步出松木ノ渡
ヲ推向ハ八舟ノ陸上ニテ鉄炮ヲ
歩矢ヲ發シ相戦ケル蒲生父子モ

賀鳥嶋一被向ケル其比ハ氏御ハ
生年十九歳十リ白赤ノ母衣ヲ懸
火威ノ鎧ヲ草摺長ニ着秋野ヲ縫
夕ル直岳ニ重代ノ太刀ニ兵庫鐘
ノ丸鞘ニ虎ノ皮ノ尻鞘ヲカケテ
ハキ白瓦毛十ル馬ノ尾髪飽ニテ
足テ太夕逞キニ沃懸地ノ鞍ヲ置
厚總ノ鞆ヲ芝步ハカリ懸テノリ

真先ニ大河一馬ヲヒタクト乗リ
ヒタシ松木ノ渡ノ先陣氏郷ナリ
トテ高声ニ名乗向ノ岸一旗ト乗
リカリ只一騎敵ノ真中ヲ懸破リ
通ケレハ縦如何ナル鬼神ナレハ
トテ是程ノ大勢ノ中一一人走入
働トテ何程ノ事カ可有組取トテ
馬上ニテ引組テ兩馬カ間一落ケ

ル氏郷下ニ成組伏ラレケルカ本
ヨリハヤリ男ノ手キナレハ落
ルト其終九寸五分ノ鎧通ヲ又キ
敵ノ腋ツホヲ突通工イト云テハ
子返ニ頼カキ切テ手ニ引オケ馬
少手負ケレトモ引ヨセオ乗テソ
被出ケル昔治兼ノ合戦ニ足利又
太郎生年十七歳ニテ宇治川ヲ渡

ニ其後永三年ニ梶原源太景季
ト佐々木四郎高綱ト先ヲアリソ
イ宇治川ヲ渡セシハ今ニ成マテ
モ言傳ケル今度氏郷カ松木ヲ越
シモ名コソハカハレ軍功ハ同シ
カルヘシトテ皆人々感シケル又
蒲生カ侍ニ外池信濃舟トテ生年
十八歳ニ成ケル若武者アリ先年

此地ニテ父討死シケル由兼々例
傳今度ノ軍ニ何者ニテモアレ一
人討取テ父ノ教養ニ報セシト志
シ走廻シニ黒皮威ノ鎧着タル武
者ニハタト逢夕リ外池悦テ天ノ
幸也トテ抄懸リ遂ニ首取テ本望
ヲ達シケルトナリ昔但子昏ハ父
ノ仇ヲ報セシトテ楚國ノ都一歩

入テ平王ノ墓ヲ掘テ死骸ヲ取出
シ鞭ニテ三百マテ打テ父ノ仇ヲ
報スヨ云リ誠ニ外池モ父ノ仇ヲ
報ルノ志シハ同シ孝子道ト云モ
勇者道ト云モ義士ナリトテ皆人
感シケル又蒲生即等ニ松山少之
進ト云大カノ剛ノ者アリ川一巻
入テ敵ノ乗ケル舟ニ取付引留シ

ハテ引ケレハ敵モ追拂ハテ太刀
長刀ヲ以テ甲ノ鉢ヲ打破トテ打
ケレハモ且テ事凡モス曳マクハ
引川ノ上半町討コト夕ノ岸一引
寄ケル処ヲ布施次郎右衛門ト云
者是ヲ見テツ、イテ川一巻入其
修舟ニ取乗テ敵二人討取テ首ヒツ
サケ舟ヨリヲリケレハ松山無念

ニ思猶モ舟ヲ不放コト夕一ツヨ
シ引ケレハ其内ニ叔山カ右肘ヲ
鉄炮ニテ打又キケレハ每力舟ヲ
放ケレハ竹村与市郎世崎宗吉モ
是時討死ニケルトナリ去程ニ信
長公先軍ヲ引取テ人馬ノ息ヲ休
トテ御退アリテ五妙ニ御旗ヲ被
立御逗留マシクケル柴田蒲生モ

其終ツキト嶋ニ居陣シテ各人馬
ヲ休メラレケル今度ハ手分ヲ定
テ攻落ヘシトテ篠橋ノ城一ハ津
田大隅守水野下野守浅井新八伊
賀伊賀守氏家左京太夫横井雅樂
助也カ口ト島一ハ織田上野庫嶋
田左助大嶋一ハ次男御曹子神戸
三七殿大鳥井一ハ柴田蜂屋稻葉



中江口一ハ佐久間父子長嶋表一
ハ信長公自身御出陣アリ八月二
日夜西風ハケシク吹ケレハ大鳥
井ニ楯籠ル者凡是潛ニ引取ント
テ落ケル処ヲ柴田蒲生父子亦留
ントテ跡ヲシタヘ追懸ユ、カシ
コニテ亦取ケル蒲生郎等ニモ内
池孫三郎新関平右衛門岡田大助

勝木平内大塚今日迄奇易并花左
衛門ヲ始トシテ高名セスト云者
ナシ凡蒲生カキ一討取首數二百
十一トソ聞一ケル各信長公ノ見
参々入ケレハ御感状ヲソ給リケル
天正六年四月十六日ニ行幸アリ
和歌ノ御會ニ寄松祝ト云通題テ
アヲク代ノ人ノ心ノ種ヲテヤ

千代ヲ契レル松ノ言ノ葉 氏郷
天正七年十一月荒木攝津守送心
企ケレハ可有追伐トテ九日ニ攝州
一信長公御祭向アリ昆陽野ニ本
陣被居ケレハ先陣ハ西宮ニ陣取
ケル蒲生モ生田亦ニ陣取テ花隈
ハ折出テ働キ比類ナキ手柄ヲ登
シ敵多ク討取ケルトナリ十二月

九二日ニ附城ヲ持ソレクニ人数
クハリ守リ勢ヲ残シヲカレ信長
公ハ御備陣アリ惣大将ニハ神戸
三七殿兼テ居陣アリケル塚口ノ
城ヲハ蒲生守ニ請取テ在番アリ
ケル氏郷所々ニ手分ヲ定メ一番
ニハ安部井弥左衛門同何無存ニ
番ニ西嶋吉右衛門北川与左衛門

三番ニ吉川八右衛門世与太郎四
番町田与左衛門大黒安兵衛五番
和田文左衛門江口甚之丞等ヲ大
将トシテ人数ヲ残ニ置氏郷八日
野一ノ飯田アリ各明年八月ニテ
守護シケルトナリ

天正八年七月大坂ニ一向宗指箆
信長公ノ下知ニ不随ケル間伍父

間右衛門信盛父子ニ被為仰付退
治アリケレドモ攻落事不叶シテ
四五ケ年空シク年ヲ送ケル間蒲
生氏郷ニ重テ被為仰付急キ退崩
ヘシトアリケレハ兼テ蚤向先天
王寺ニ本陣被居人数ノ手分ニテ

右
一田丸中務
一蒲生子世丸
一河井左衛門

一番

九
一垂右兵衛
一玉倉弥作
一玉井数馬
一垂甚内

一三田中務
一三田大藏
一三田大藏

一三田中務
一三田大藏
一三田大藏

一森民部

二番 外池信濃三番

一町野主水

九
一蒲生忠兵衛
一梅原清右衛門
一高木助大
一世友宗月

右
一布施右衛門
一塚田甚内
一神田清右衛門
一佐治主計

旗本 五番

九
一伊坂大藏
一矢野民部

右
一池田八右衛門
一江口甚三丞

陣取固ク歩田テツククト城ノ様躰ヲ見考免角北城ハ力業ニ

テ不可落佐久間モ数年在陣ニテ攻ケレ尺遂ニ不落今又蒲生耐業ニテハ不可及ワツカノ小勢ニテカシ数年楯籠ヌル事外ヨリ一味ノ者アツテ俵粮ノ自由ナル故也城四方一番所ヲ搦テ城ノ通路ヲ差塞ハ城中俵粮尽自カラ降参可出トテ森民部町野左近田丸中務

右
一田丸中務
一蒲生子世丸
一河井左衛門

一番

九
一垂右兵衛
一玉倉弥作
一玉井数馬
一垂甚内

一三井地蔵
一三井大蔵
一三井利四郎

二番一外池信濃三番

一町野主水
九
一蒲生忠兵衛
一梅原清右衛門
一高木助大
一世友宗月

一森民部
右
一布施右衛門
一塚田甚内
一神田清右衛門
一依治主計

旗本五番

九
一伊坂大蔵
一矢野民部

右
一池田八右衛門
一江口甚三郎

如此陣取固ク歩困テツククト城ノ様躰ヲ見考免角北城ハ力業ニ

テ不可落佐久間モ数年在陣ニテ攻ケレ尺遂ニ不落今又蒲生耐業ニテハ不可及ワツカノ小勢ニテカシ数年楯籠ヌル事外ヨリ一味ノ者アツテ俵粮ノ自由ナル故也城四方一番所ヲ拆テ城ノ通路ヲ差塞ハ城中俵粮尽自カラ降参可出トテ森民部町野左近田丸中務

被仰付各堅ク在番アリケレハ程
十ク城中飢勞シテ和睦ヲ乞大坂
ノ城ヲハ明可渡ノ由誓紙ヲ以テ
奏聞申上ケレハ此由信長一傳奏
ヨリ被申入和睦ニ成テ城ヲ請取
ケルトナリ

天正九年ニ伊賀ノ国ノ住人移地
ニテ信長公一味方ニ参リお手ヲ

被遣候一案内可申上旨申ケレハ
ナラハトテ八月廿二日ニ諸大將
ノ手分ヲ定テ可攻トテ伊賀口一
ハ信雄公大和口一ハ筒井順慶甲
賀口一ハ蒲生賢秀兼テ押寄ケル
町野左近和田文左衛門申ケルハ
敵定テ伊勢口大和口ヲハ大事
防キ人数ヲモ多ク出シテキ甲賀

表ハ節所ヲ便トシテハカクシキ
人数モ不出敵可油断其終時ヲ不
移抄入テ討果ニタニ一ト申ケレハ
賢秀聞名重戦ノ法ニハ我陣ヲ大
事ニシテ備ヲ堅固ニシ敵ノ様躰
方便ヲ能見スカシ戦コソ軍法ナ
レ敵ノ手立モ不知押寄戦事アル
マニキナリ先備ヲ取陳屋ヲ調ヨ

トテ各陣取テケルオテ明レハ七三
日ニ物見ヲ出シテ敵ノ様躰ヲウ
カ、イケルニ如案節所ヲ便トシ
テ逆茂木モ不引ハカクシキ勢ヲ
モ不出度カシコノ峯ニ旗ヲ立置
マハラニソヒカ一ケル賢秀ナラ
ハ乱入テ討果トテ一度ニ嚙ト攻
入ケレハ一防モナ、ハス逃入ケ

レハ賢秀一番ニ甲賀口ヨリ乱入
テ大花ヲ散シ戦ケレハ四方ノ寄
手モ我ヲトラシト乱入相戦ケル
間悉ク敗北シケルトナリ残ル伊
賀侍ハ降参シテ入ケレハ賢秀人
質ヲ取テソ隔陣アリケル
天正十年三月十九日信長公諏訪
表一御出陣アリテ法養寺ニ本陣

被居ケレハ蒲生忠三郎氏郷ハ先
手ノ大将兼テ細野カ原ニ陣取テ
廿一日ヨリ軍始シテ相戦無比類
勸ヲシケルトナリ

同年六月二日信長公為明智被殺
給ケル其時蒲生賢秀ハ安土ノ御
留主居ニテ守護ニ被居ケル斯日
ノ未刻ニ惟任カ謀叛ニテ信長公

殺ナレ給由安土一函一ケレハ免
角御臺所公達其外女房達ヲハ日
野谷へ引取可申トテ氏郷方一衆
物五十丁鞍置馬百匹傳馬百匹石
連早々腰越テテ可差越由申遣ニ
カハ三日ノ外ノ刻ニソツキケル
御城ヲ開テイラセラル、上ハ殿
舎ノ寶物金銀等ヲハ取り城中ニ

火ヲ懸ノキ給一ト女房達ヨリ宣
ヒケレハ蒲生被申ケルハ信長公
年来御心ヲ尽ナレタル殿舎ヲ假
令此盜ニナレハトテ蒲生所存ト
シテ燒亡ナシコトハ毎冥加次ニ
財宝ヲ取テ退ハ蒲生カ私慾ニフ
ケリテ各ヲノケ奉ル也ト世間ニ
申ナシ事必定ナリ惟任ハ人非者

アレハ金銀ヲ取テ身ノカナリニ
ニ殿舎ヲハ焼申度モアル一ニ不
焼ニテ己カ幸ニスル天命ト云
事アレハ何ソ世ヲ保子申ヘキト
テ各相具シテ日野牧中野ノ城ヘ
ソ退ケル誠ニ清白ナル義士ナリ
トソ申ケル去程ニ信長公父子御
腹石由三男信孝公聞召父ノ孝養

明智ヲ討果ナントテ廊上洛アリ
ケリ泉州湯浦ヲハ三日ノ暮ニ廊
奔足アリテ先大坂ヘ步越明智カ
鞆織田信澄ヲ討崩タマフ次男北
畠信雄ハ松賀嶋ヨリ步テ廊上洛
アリ其日ハ坂下ニ陣取給フ蒲生
氏郷モ日野ヨリ馳加ケリ然處ニ
伊賀回ニ一揆起ノ由仁木入道友

梅早馬ヲ以テ申上ケレハ沢源六
郎秋山右近芳野宮内ヲ大将トシ
天種佐左衛門ヲ軍奉行トシ先一
宮ヲ攻落シケル故ニ信雄ハ二三
日逗留アリケル其内ニ信孝ハ大
坂ヨリ歩上リ被申ケルニ羽柴秀
吉池田信輝丹羽長秀堀久太郎高
山右近中川清兵衛泰加テ遂ニ明

智ヲ無故退治アリ
フマシ

天正十一年正月朔日ニ北畠具親
南伊勢譜代ノ侍臣集テ一揆起シ
旗ヲ奉ケレハ稻葉權樂助安俊大
藏助岸口大炊助一味ニテ篠山城
ヲ責取ケル蒲生氏郷是由ヲ聞急
追崩シントテ奔向シ先土山城ヲ
攻ケル岸口大炊助遂ニ歩負テ城

明退ケル

同年八月ニ秀吉公澁川一益ヲ攻
崩シテ龜山ノ城ヲハ関長門守ニ
給リ蒲生氏郷与力ニソ被仰付ケ
ル本ヨリ田九中務三瀬左喜ハ蒲
生暮下ニ属スレハ九鬼秋山モ手ニ
入ケル芳野一家手ニ不入シハラ
クサ、ハケル間急キ追崩シト勢

ヲ催ケレハ是ニ降参ニ味方ニソ
参ケル

天正十二年三月ニ秀吉公飯高郡
松賀嶋ヲ攻取ントテ折立給処ニ
家康公ト羽柴孫七郎秀次ト合戦
ノ由聞召秀吉公先尾刈一巻向シ
給ハ蒲生氏郷ハ佐久間甚九郎カ
楯篋ル峯城ハ押寄戦遂ニ佐久間

ヲ攻崩シケレハ依久間ハ尾州へ
退ケル則今度ノ御褒義トシテ松
賀嶋城南伊勢五郡ヲ蒲生氏郷ニ
可攻取ト被為仰付ケル然ル処ニ
コトキノ事大事ナレハ松賀嶋ヲ
ハ歩ステ氏郷モ尾州一奈加ケル
去程ニ秀吉公コトキノ城へ寄
テ各シヨリヲソ持ケルコトキノ

城ヨリ七町ヲ隔テ柵ヲフリ柵ノ
内ニ堀ヲホリ堤ヲツキ堤ノ内ニ
取出ノ城ヲ五ヶ所持稻葉五州長
藤五左衛門長世越中舟蒲生氏郷
丹羽左兵衛兼テ人々勢ヲ出シ取
出ノ城ヲ守ラセケル蒲生請ナレ
取出城ノ大将ニ八田九中務三瀬
左京町野左近助也其ヨリ一里隔

青塚ニ右五人ハ本陣ヲ取テ備ヘ
ケル

一番長勝二番一丹羽三番一蒲生四番一日根五番
一蜂屋

一
一
一
一
一金森

是間一里カ内ニ陣屋ヲ作居陣ニ
テ取出城ヲ守リケル東ハ岩崎表
武藏守陣取西ハ大口城長嶋勝太

夫陣取樂田ニハ秀吉公御本陣被
居ケルハク口ニハ惟住五郎左衛
門陣取八草ニハ池田紀別父子陣
取岩崎山ト八草山トノ間ニハ三
好孫七郎中川友兵衛陣取ケレハ
五六里間ハ尺寸ノ地モ十三家康
公モコトキ山一御出陣アリテ防
戦ケルカ後ニハ秀吉公信雄家康

公モ皆和睦ニソ成テ毎夏ニケル
トナリ去程。氏郷ハ南伊勢特領
アリケレ尺木造城ヲ明テ不渡ケ
ル間尾刈ヨリ隔陣ニテナラハ木
造ヲ追崩ナシテ勢ヲ催ケル処
小山戸ノ住人世村修理長野左京
兩人木造ニ逆心ニテ氏郷手下ニ
属ニ案内ニテ先小山戸一押寄一

番ニ切掛城ヲ攻落シ其ヨリ城山
次郎左衛門カ指籠佐田城一押寄
手痛責ケレハ不叶ヤ思ヒケン城
ヲ明テ渡シケル氏郷ハ城ヲ請取
テ松賀嶋ハソ隔陣アリ若シ木造
出張セハ打果ナシトテ兼々軍兵
ヲ相計ケレトモ木造モ押寄不來
シテ日ヲ過シケル爰ニ五月十五

日夜木造カ勢兵ニ田中仁左衛門
畑作兵助金子十助ヲ大将トシテ
小河表ハ蒞田ニ出ケル氏郷家子
ニ外池長吉郎ト云者鷹野ノ帰ニ
行逢ケレハ追拂ニトテ馳向ヒ敵
々ニ攻戦ケレ氏多勢ニ每勢ナレ
ハ逐ヒ歩負其身モ討死ニケル松
賀嶋ヨリハ隔夕リケレハ其義ヲ

不知鉄炮ノ音ノ聞ケレハ氏郷イ
カ寸ニ木造押寄来リツラニトテ
鎧取テ折掛馬ニ乗テ馳出玉ハ
木造勢ハ芳瀬ニ引取テ息ヲツキ
居ケル処ハ氏郷突懸戦ケル其内
ニ氏郷ノ侍外池孫左衛門山源
内菅根助右衛門世儀太夫世嶋宗
吉高野田龜之丞壽一番ニ馳来リ

主ヲ討ヒシト立塞テ戦ケル氏郷
甲ニモ鉄炮ニツ三ツ當リケレ
裏ヲハ不通其間ニ次第ニ氏郷勢
兵馳来リ重テ木造カ兵不残討取
ケレハオラハ此威ニ木造ヲ夜討
ヒントテ押寄ケレハ不思寄リテ
レハ木造モ一防モナクハス悉ク
敗北シケル木戸ノ夜合戦ナテ今

ニ無其隠トナリ

天正十三年十一月廿八日ニ木造

牢人ノ侍伊勢朝熊山一登山ニテ
一揆ヲ催ヒケル由風聞アリケレ
ハ不及火事先ニ急キ可追崩ナテ
氏郷松賀嶋ヨリ袞向ヒケル朝熊
山ニモ極樂橋ヲ引落シケル松
其外所々一逆茂木引宇治山田ヨ

リ通路ヲ塞キ鳥羽五ヶ瀬ノ地侍
楯籠ケル氏郷其日ハ先ツ外宮一
叅宮ニ其夜ハ御師ナレハ中西与
ニ石房門尉常尚カ所ニ宿ニ町野左近
助ニ先手ノ大将ヲ被仰付ケレハ
宮川ヨリ直ニ朝熊山ノ麓ニテ押
寄其夜ニ谷々一人廻シ夜モスカ
ヲ篝火ヲ焼山ヲ取巻夜明ナハ寺

ヲ焼討ニヒント守リ明ニケル坊
中是ヲ見テ佗ヲ請ヒ牢人ヲハ追
出スヘシ寺ハ太神宮ノ御寺ナレ
ハ毎恙様ニトテ中西常尚ヲ以テ
申シケレハ氏郷モ兼引ニ給無支
ニソ成ケル其内ニ先手ノ足輕氏
坊中一乱入テ撞鐘金灯籠等ヲ引
取テ本堂ヘ火ヲカケ焼拂ニトニ

ケルヲ帝尚急キ馳登テコト無支
ノ上ハ各引返ス一シトテ悉ク其
勢ヲ引取ケル氏郷モ九九日ニ松
賀嶋一ノ下向アリケレハ常尚右ノ
宝物ヲ申請置悉ク朝熊一返シケ
ルト十リ

天正十五年正月一日ヨリ九別表
ノ手分ヲ被仰付各在番アリケル

九五日ヨリ晦日ヲテハ羽柴備前
少将一万五千二月朔日ヨリ四月
下テハ宮部中務法印南条勘兵衛
亀井武藏守木下平太夫垣屋平右
衛門都合五日ヨリ九日ハ前
野但馬守明石九込太夫赤松左兵
衛尉別取主水助福嶋左衛門中川
右衛門高山大藏羽柴丹後侍従都

合壹万七千十日ヨリ十四日ハ羽
柴中納言同伊賀侍從都合一万七
千十五日ヨリ十九日ハ丹波女將
若狭侍從生駒稚樂頭都合八千九
日ヨリハ越中侍從北庄侍從木村
常陸及青山助兵永村上次郎右飛
門溝口金右衛門山田喜右衛門都
合二万騎廿五日ヨリハ蒲生松賀嶋

侍從織田三郎九鬼大隅守世本下
總守收身侍從近太夫曾根侍
從都合一万五千騎三月一日ヨリハ
関白秀吉公御馬廻小姓衆尾洲大
納言陸奥侍從水野宗兵衛石川出
雲守羽柴左衛門河内侍從蜂屋大
膳太夫市橋下總守生駒主殿及有
馬刑部法印矢野善十郎稻葉兵庫

上田左太郎津田隼人松下加太夫
瀧川義太夫牧村兵庫勢田掃部池
田久右衛門吉田織部都合五千七
百五十騎前備二八淺野彈正次弼
木下式部山崎志广舟戸田平右衛
門長谷甚兵衛戸田民部都合四千
八万後備二八富田元近將監早川
主馬津田大炊寺西次郎大塩与一

郎加須屋内膳池田備中舟川尻肥
前守加藤主計吉田兵部元茂三郎
兵部青木取右衛門都合三千騎也
如此段々ニテ各守護シケレハ関
白ノ御威勢羨々シクソ見ハケル
天正十六年八月ニ松賀嶋ヨリ飯
高郡^四五^五森ヲ城地ニ拵テ氏御被
移ケル今ノ松坂ノ城ト号スル是

也其比ハ松坂ニ慮斎ト云世捨人
アリ本ヨリ茶ノ陽ノ数寄ナリケ
レハ竹ノ柱ニ柴ノアミ戸ノ内ニ
テモ茶湯ノ瓶ヲ持士器ノ釜ヲス
一不断夕ノシニ前ナル庭ニ女富
士ノ山ノ瓶ヲ作庭ニシイテ侘敷
体ナリ氏郷モ常々聞召或時立寄
給一ハ慮斎不斜悦テ御茶ナリテ

進侍ル近習ノ衆是山ハ富士ニハ
不似スリコキ山ニテ侍ト申ケレ
ハ氏郷聞召シ

富士ニ又カ富士ニハ似ヌソ松坂ノ
慮斎カ庭ノスリコキノ塚

辺ニ

富士ハ見ニ富士ニハ似セヌ我庭ニ
スリコキ成ノ塚ヲコソツケ

天正十八年ニ秀吉公相州北条ヲ
征誅ス一シトテ御發向アリ備テ
取テ城ヲ真中ニ取巻被攻ケル都
合其勢二万八千五百余

一番

一 稻葉与次 右三 一 早川藤五郎 一 益 一 日根備中 一 蜂屋出羽守

一 同助右衛門 左三 一 羽柴九郎 一 益 一 長世越中 一 惟任五郎右衛門

金森五郎八

如此備テ取押寄人々攻戦ケル中
ニモ蒲生ヨリ一番乗ヲソシケル
外池信濃大塚今日追奪ト云大剛
者アリ諸軍勢ノ内ヨリ進出テ外
池一人城ノ屏下ニツキ乗越ニテ
四方ヲウカ、イケレトモ櫓ヨリ
弓銃炮ヲ兩敷ノ降コトク歩カケ
射カケ侍ケル間思フ終ニハ不働

ニテ屏下ニ伏テスキマヲウカ、
イケル外池ヤカテ馬印ヲ取テ城
内ニ十ヶ入ケレハ城中ヨリモ表
一取テ十ヶ返シ互ニ十ヶ入十ヶ
返シ四五度シケル其内ニ大塚ツ
、ヒテ屏ノ肘手木ニ取ツキ上
ケレハ追落サシト鑓ヲ以テ突カ
ケ侍大塚モ太刀ヲ又キ鑓ノ柄ヲ

斬拂ヒモニモウテソ戦ヒケル
処ヲ秀吉公御覧シテ蒲生守ヨリ
一番乗シタリト見タリアタラ侍
ヲ敵ニ討ス十ツ、ケマ兵居下
知シ玉ハ蜂屋惟任ヲ始トシ我
先ニト走カ、リ攻戦ケレハ遂ニ
落城シケル其後秀吉公氏郷ヲ召
今度ノ一番乗比類十キ手柄十リ

二人ノ者ヲ呼出セヨト宣ケレハ
畏テ二人伺公シケル秀吉公兩人
ヲ御前ニ近ク召シ根篠ノ馬印ハ
誰カ指物ニテ有ツルト被仰ケレ
ハ外池カ指物ニテ候ト申上ケル
發者根篠ノ馬印一番ニ立ケルト
宣ハハ外池謹テ申上ケルハ今度
ノ一番乗ハ大塚ニテ御座候某ハ

屏下ハハツキ申候一尺身重ニテ
不能取来大塚カ馬印モコニ地ニ
自身ノツタノ葉ヲ深又キケレハ
御覽タカ一尺可者ト申上ケレハ
大塚イマク某尤屏ハ取来タリ
ト云ハハ外池一番ニ屏下ニツキ
其上馬印城中ニ一番ニ立候ハハ
何疑カ候一シト申ケル兔角双方

ノ指物ヲ取寄ヨテ御覽アルニ
誠一番乗リト見一スニク突カキ
四年ノ如シ秀吉公モ誠ニ天下一
ノ大剛ノ者凡カト如此互ニ功ヲ
讓ル事毎比類イツレヲ一二ト云
カ夕ニ今度ノ一番乗リハ兩人凡
ニ御感状ヲ可被下トテ其俣御朱
印ヲ給リ當座ノ御褒美ナリトテ

外池ニハ御太刀ヲ給リ大塚ニハ
長刀ヲソ給ケルトナリ

同年九月ニ氏郷奥州會津ヲ拜領
シ勢州松坂ノ城ヨリ移リ給フ則
奥州ノヲナシテ兼テ守護ニケル
ト也小田原退治ノ軍功有ル故也
冬葛西大崎ノ敵ヲ平ク同十九年
南部九戸ノ敵ヲ退治ス此ニ依テ

拜領百萬石也

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

凡例

貞秀

從田原藤太秀郷十九代後亂

蒲生下野守秀絶子也延徳年

中任凡兵衛太史五十歳入道

号智閑江州蒲生郡日野牧中

城住居八十六歳卒号信樂院

秀行

若冠大郎天正十若冠二郎凡

年九月任刑部大輔秀紀号藤
兵衛尉補入道号宗拾

高江

若冠小次郎任左衛門大夫
入道後号真清攝取院

秀順

若冠与十郎任左馬允改蒲
生為音羽

定秀

若冠藤十郎中比左兵衛太夫
後任下野守五十歳入道号宗
智收幹軒

賢秀

若冠藤太郎後任左兵衛太夫

氏郷

若冠忠三郎中比左驛守天正
十二年從日野城移勢別松賀

嶋城天正十六年作松坂城同
年任四品侍從同十八年與別
會津拜領 室者信長公御娘也

秀行

若冠藤三郎任飛驒守慶長十
一年任四品侍從後又任參議
室者大相國家康公御娘也

忠郷

若冠龜千代後号下野守任四
品侍從寬永丙寅任宰相同卯
年正月四日逃去魚寶子

忠知

若冠鶴千代任中務大輔忠郷
死去之後繼蒲生家拜領豫州
住松山城寬永十一年八月十
八日卒無寶子



欽

Faint vertical text columns, likely bleed-through from the reverse side of the page.



